

地域管理経営計画の概要

紀中森林計画区

1 森林計画区の概況

紀中森林計画区の国有林野2,323haは、和歌山県の中央に位置し、内陸部に4団地が点在しています。



森林計画区内の森林面積に占める国有林野の割合は、3%ですが、有田川や日高川の水源地帯に位置していることから、国有林野面積の98%が水源かん養保安林に指定されており、下流部の水源として重要な役割を担っています。

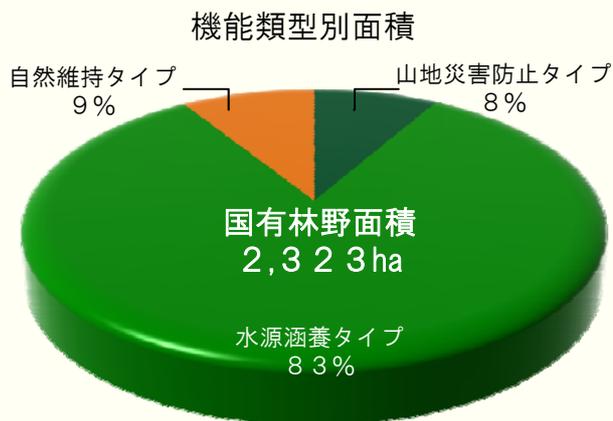
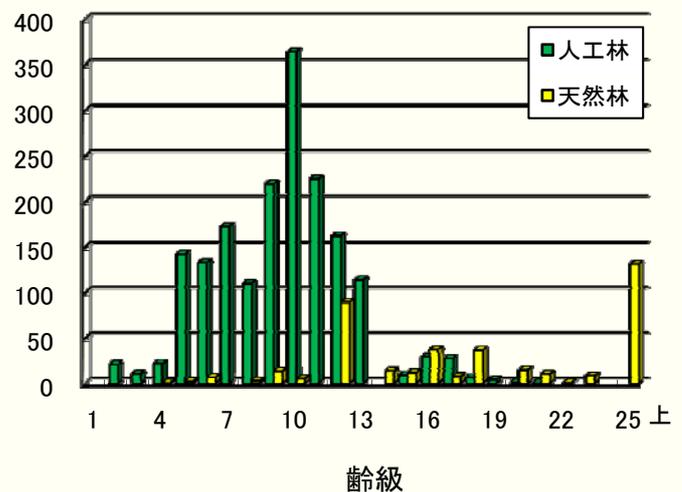
森林資源のうち人工林は、国有林野面積(林地)の82%を占め、全区域に広く分布しており、樹種別にはスギ・ヒノキが94%を占めています。また、天然林は18%を占め、西ノ河国有林に多く分布しており、モミ・ツガが26%を占めています。

国有林・民有林別森林面積



人天別・齢級別面積

面積(ha)



注・各データは、平成27年現在。

・齢級とは、5年をひとくりにし、林齢1~5年生を1齢級、6~10年生を2齢級、以下、3齢級、4齢級と続く。

2 国有林野の管理経営に関する基本的な事項

森林共同施業団地

(単位：ha)

箇所数	面積	
	国有林	民有林
1	843	1,751

西ノ河国有林において、民有林と連携することで事業の効率化や低コスト化が図られる区域を「美山地域森林共同施業団地」に設定し、路網の整備と相互利用の推進、民有林と協調を図りつつ計画的な森林施業の実施に取り組みます。



森林共同施業団地内での木材搬出作業
(西ノ河国有林：日高川町)

3 主要事業

地球温暖化防止をはじめとする森林の有する多面的機能を持続的に発揮させるため、543ha (55千 m^2)の間伐を実施し、間伐材の有効利用に努めるとともに、57ha (19千 m^2)の主伐を実施し木材の計画的な供給に努めます。

種類		新計画	現計画
伐採総量	主伐	57ha (18,970 m^3)	26ha (13,342 m^3)
	間伐	543ha (55,059 m^3)	448ha (38,932 m^3)
更新総量	人工造林	46.00ha	36.52ha
	天然更新	—	0.37ha
保育総量	下刈	138.00ha	126.57ha
	除伐	22.08ha	12.99ha
林道事業	開設	2,200m	8,768m
	改良	900m	—
治山事業	保全施設	12箇所	23箇所
	保安林整備	50.40ha	45.63ha

- 注・主伐とは、利用期に達した樹木を伐採し収穫すること。間伐と異なり伐採した後に更新を行う。
 ・間伐とは、育てようとする樹木どうしの競争を軽減するため、混み具合に応じて一部の樹木を伐採すること。
 ・更新とは、伐採等により樹木がなくなった箇所において、植林を行うことや自然力の活用等により森林の世代が替わること。
 ・除伐とは、育てようとする樹木の生成長を妨げる他の樹木を刈り払う作業。通常、育てようとする樹木の枝葉が互いに接する状態になるまでの間に行う。

4 国有林野の維持及び保存に関する事項

保護林

希少個体群保護林を2箇所設定し、モニタリング調査を通じた適切な保護管理に努めるとともに、大学や研究機関へ学術研究のフィールドとして提供するなど、積極的な情報提供に努めます。

西ノ河ツガ・ブナ
希少個体群保護林



西ノ河国有林 (日高川町)

西ノ河モミ・ツガ遺伝資源
希少個体群保護林



西ノ河国有林 (日高川町)

区分	名称	特徴等	国有林名 (市町村)	面積 (ha)
希少個体群保護林	西ノ河ツガ・ブナ希少個体群保護林	紀伊地方を代表するツガ・ブナの高齢級の天然林の保護	西ノ河 (日高川町)	19.25
	西ノ河モミ・ツガ遺伝資源希少個体群保護林	南海型気候帯に属する高齢級のモミ・ツガ天然林を保護し、林木の遺伝資源を保存		44.53